

編集後記

本誌の編集を担当いたしました松岡由幸です。

私が専門としますデザイン（設計）領域は、これまでその領域の細分化の一途を辿ってきました。例えば、19世紀には、製品デザインにおいて、芸術に視座を置く（現在でいう）インダストリアルデザインと技術に視座を置くエンジニアリングデザインという二つのデザインへの分業化がはじまりました。その後、20世紀では、それらのデザインは、製品システムの大規模化・複雑化や利用する科学技術の高度化に呼応すべく、デザインの対象や専門領域ごとにさらなる細分化を推し進めてきています。

しかし、このような細分化は各デザイン間の協調を難しくさせ、デザインされた人工物やシステムは全体としての統制を失い、機能調和や信頼性などにおいて多くの問題を顕在化させるに至っています。そのため、21世紀に入ってから、細分化された各デザインを束ねるデザイン統合としての「デザイン科学（Design Science）」の基盤構築に向けた動きが、国内外で盛んに行われています。まさに横幹の目指すところに同調するかたちで、現

在、これらの活動が進められているのです。

ところが、このようなデザイン科学において、これまでの枠組みでは論じられていない領域が存在しました。それが、人工物やシステムの時間軸における状態変化をデザインする「タイムアクシス・デザイン」です。このタイムアクシス・デザインには、インフラなどの大規模なシステムにおける完成までの長い過渡期のデザインや人工物の使用期間に注目し、愛着の深化やサステナビリティを強化しようとするデザインなど、さまざまな対象が考えられ、今、デザインや設計工学の領域において新たな動きとして、研究がはじめられてきています。

このような背景から、本誌におきましては、ミニ特集「横幹の活動としての『タイムアクシス・デザイン』」と題し、工学系、芸術系の先生方による考え方や研究、また企業における開発事例を紹介いただきました。本特集が、デザイン・設計系以外の領域の方々におきましても何かのご参考になるとともに、今後の領域間における連携のトリガーになれば幸いです。

会誌編集委員会委員 松岡 由幸（慶應義塾大学）

【特定非営利活動法人 横断型基幹科学技術研究団体連合（横幹連合）】

2011 年度役員

会 長	出口光一郎（東北大学）	
副 会 長	田村義保（統計数理研究所）	安岡義文（科学技術振興機構）
理 事	青木和夫（日本大学）	池上敦子（成蹊大学）
	板倉宏昭（香川大学）	上野元治（未来工学研究所）
	大場允晶（日本大学）	木野泰伸（筑波大学）
	小坂満隆（北陸先端科学技術大学院大学）	後藤 彰（(株)荏原製作所）
	税所哲郎（群馬大学）	佐藤吉信（東京海洋大学）
	田中秀幸（東京大学）	玉置 久（神戸大学）
	寺野隆雄（東京工業大学）	仲谷義雄（立命館大学）
	平井成興（千葉工業大学）	船橋誠壽（横幹連合）
	本多 敏（慶應義塾大学）	松岡由幸（慶應義塾大学）
	山崎 憲（日本大学）	渡辺美智子（東洋大学）
監 事	木村英紀（理化学研究所）	西村千秋（東邦大学）

2011 年度 会誌編集委員会

委 員 長	税所哲郎（群馬大学）	
副委員長	青木和夫（日本大学）	
委 員	池上敦子（成蹊大学）	大野富彦（新潟国際情報大学）
	加藤象二郎（愛知みずほ大学）	金子勝一（山梨学院大学）
	榎木哲夫（京都大学）	庄司裕子（中央大学）
	玉置 久（神戸大学）	椿 広計（統計数理研究所）
	長嶋雲兵（産業技術総合研究所）	奈良高明（電気通信大学）
	福田隆文（長岡技術科学大学）	藤井 享（(株)日立製作所）
	松岡由幸（慶應義塾大学）	三宅美博（東京工業大学）
	山田雄二（筑波大学）	